





JSRは 未来の社会に貢献するため、 変化を力に変え挑戦し続けます

代表取締役・CEO・社長執行役員
堀 哲朗

故きを温ねて新しきを知る

当社は高い技術力とグローバルに広がる多様な人財の持つパワーを結集し、社会の発展に必要不可欠な先進的な素材とソリューションを提供する企業として、デジタルソリューション事業、合成樹脂事業、ライフサイエンス事業を展開しております。1957年に日本合成ゴム株式会社として合成ゴムの製造から始まった当社は、創業以来培ってきた高分子化学技術を応用し、合成樹脂事業やデジタルソリューション事業に進出してまいりました。現在は、高分子化学から派生して、種々の科学を事業に活かしております。当社のコアコンピタンスは、高分子化学から始まる科学技術力、知見、それらを支える人財です。このような歴史をふまえた上で、事業変革に取り組み、私はJSRの新しい章を描いていき

たいと考えています。私は2025年1月1日にJSRに入社し、同年4月1日に代表取締役・CEO・社長執行役員に就任しました。特にコア事業である電子材料事業においては、前職の半導体装置メーカーで培った半導体業界の歴史の理解や、企業合併、M&A、ポートフォリオマネジメント等の経験を活かし、戦略形成、財務管理、組織作りなどの改革を進めてまいります。

2025年中期計画について

当社は2025年中期計画を策定しました。昨今の世の中の情勢は、地政学的変動、国または地域間の紛争、物価上昇による需要抑制、米国関税政策など、不透明で予測しづらく、かつ変化の激しい状況が続いています。このような時代の中でも社会に価値を提供し続けていくことが、企業の社会使命だと思っております。そのためには、当社の現状をしっかりと認識し、確実に課題を解決することが必要です。現在当社が抱える課題の中で優先度の高いものは、財務的な基盤だと考えています。事業ポートフォリオの整理や資本構成の見直しに取り組み、安定した企業価値を形成してまいります。当社の主要な対面業界である半導体業界は変化も多いですが、高い成長性が期待できます。2024年度においては電子材料事業で対前年大幅に伸長し、売上・利益ともに過去最高を更新しました。今後もデジタルソリューション事業においては市場成長が継続するとみており、電子材料事業、ディスプレイソリュー

ション事業、オプティカルソリューション事業を成長ドライバーと定めた中期計画を始動しました。2030年までに1,000億円のコア営業利益達成を目指し、積極的な事業展開とともに、同事業への再投資を進めてまいります。

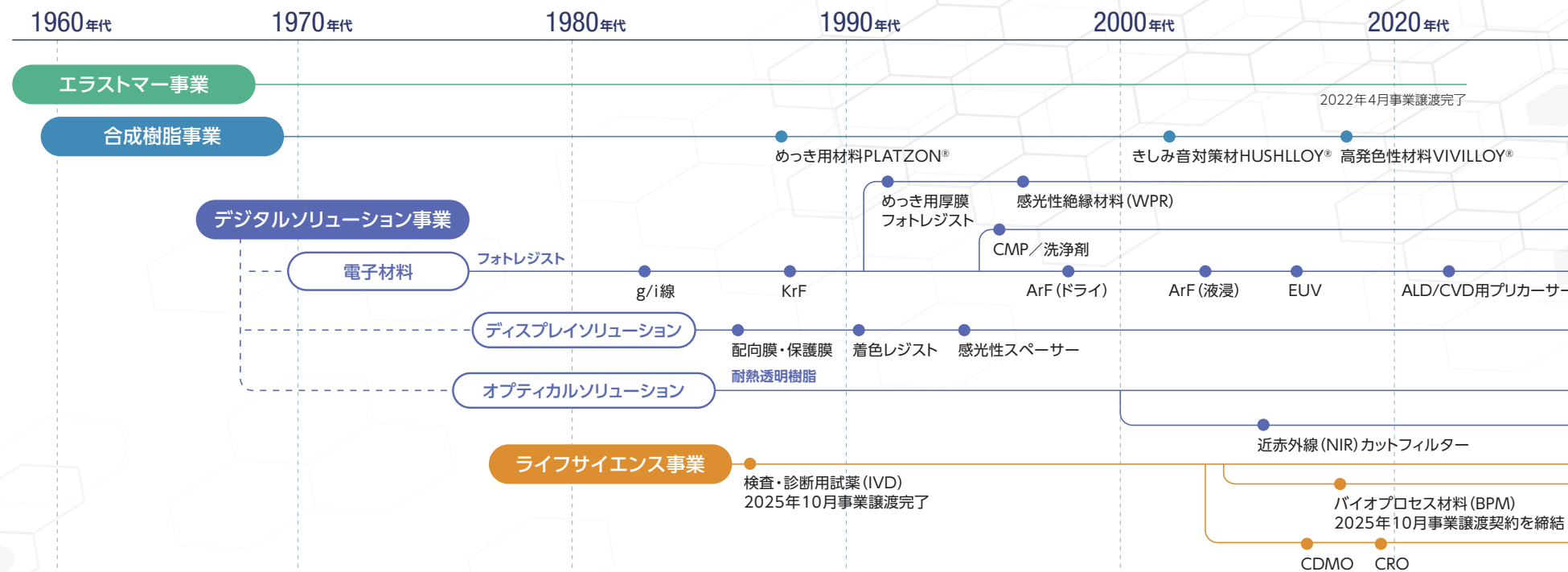
個性を強みに変え社会に価値を提供する

企業が価値を創出するためには、財務面のみならず数値で表すことのできない資産も重要です。その主たるものは優れた人的資本だと考えています。社員一人ひとりが、なにか一つ「これに関しては負けない」という、自分の軸や競争力のある部分を持つことで、変化に負けない組織としての強さにつながると考えています。強いチームを作るために、個人の力を強めなければなりません。個人の力は、まずそれぞれの仕事に関わる専門的な分野で発揮されなければなりません。そして、様々な教養を深めることで人間としての厚みが増して、それがダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンへの取り組みにもつながっていきます。JSRの従業員ならではの強みを伸ばし、その人の個性を伸ばすキャリア形成を推進したいと思います。自らをアップデートし、お客様の要求についていくだけでなく、お客様もまだ気づいていないアンメットニーズを先読みする。そうすることで、当社にしか作ることのできない価値を生み出し、お客様をはじめとする取引先や社会に価値を提供し、変化に強い会社になることを目指してまいります。

事業変革の軌跡と現在地

JSRは、1957年の創業以来、精緻を極めた最先端テクノロジーカンパニーとして、科学の進歩と実用化を推進。
新たな可能性を見いだすインスピレーションを常に持ち続け、無限の可能性を持って世界が必要とする新しい領域に挑戦し続けます。

JSRの沿革



事業を通じた社会への貢献(インパクト)

たとえば、
自動車の普及に



1960年に合成ゴムの国産化を実現し、モータリゼーションの発展に寄与。また、内装材に合成樹脂が採用され、自動車の快適性にも貢献しています。

たとえば、
電子機器の拡大に



半導体製造に使用されるフォトレジストによって、半導体チップの微細化を実現。高性能な電子機器開発が可能となり、情報通信産業の発展に貢献しています。

たとえば、
液晶テレビの全盛期に



培ってきた高分子技術を活かし、液晶ディスプレイの高輝度、高精彩に貢献する豊富なラインナップを開発。薄型テレビの普及に貢献しました。

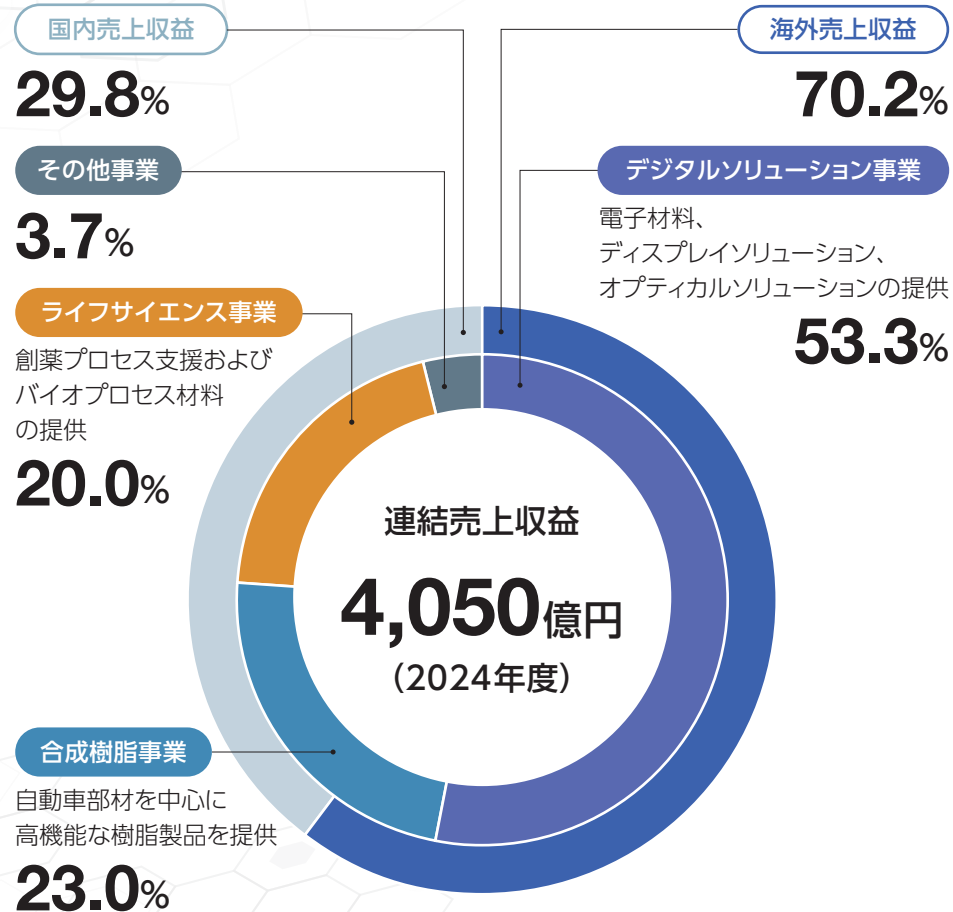
たとえば、
バイオ医薬品開発で



創薬支援サービスなどにより一貫したサポート体制を確立。バイオ医薬品開発の課題解決に貢献しています。

数字でみるJSR(2024年度)

JSRの事業セグメント



連結従業員数

7,645名

※2025年3月31日時点の連結従業員数

このうち海外拠点で働く従業員数は
3,974名です。

研究開発費

342億円

※2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日実績)
グループ全体、仕入品に係る受託研究費を含む

未来の技術のために研究開発に力を
入れています。

グループ企業

国内**15**社
海外**41**社

※2025年10月2日現在

グローバルに事業を展開しています。

有給休暇取得率

84.1%

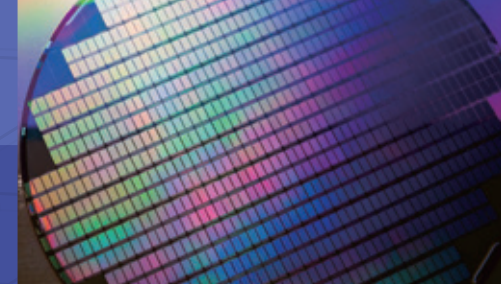
※2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日実績)、
JSRからの出向者を含む

ワークライフバランスを重視した働き
方を推奨しています。



デジタルソリューション事業

半導体・ディスプレイパネル製造材料等の提供



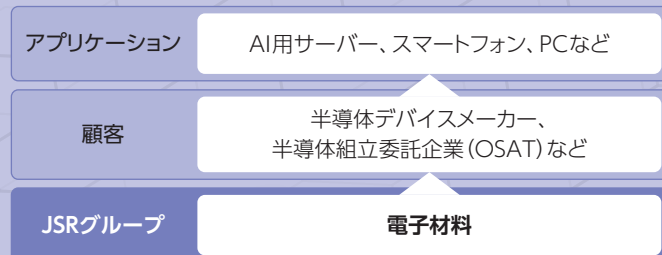
電子材料事業

半導体産業における高品質・機能性材料のリーディングカンパニーとして、デバイスの製造プロセス全体にわたり幅広いソリューションを提供しています。世界中のお客様の歩留まり向上と生産性最大化を実現し、次世代デバイスの開発と幅広い領域のデバイス製造を支えます。

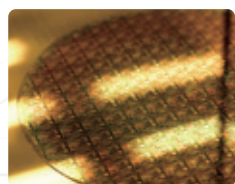
強み

- 40年以上にわたる電子材料の経験
- 幅広い製品ラインナップ
- 開発から量産供給まで一貫した総合体制
- 先進的な生産技術とマテリアルズ・インフォマティクス(MI)の活用
- 次世代材料を創出する先端分野開発

JSRグループのポジション



リソグラフィー材料



高性能／
微細化による
回路形成

各波長に対応するフォトリソから有機・無機が多層材料などを揃え、総合的ポートフォリオとデバイスの高性能化・信頼性を同時に支える材料設計を実現

主な製品

- フォトリソ
i線、KrF、ArF、EUV(化学増幅型、金属酸化物型)
- 多層材料(有機系・無機系下地膜)

プロセス材料



多層配線形成
の多層化／
精工化

化学的機械的平坦化(CMP)工程や、ウエハ上に発生する残留物を除去する際に使用される製品を提供し、多層配線形成に寄与

主な製品

- CMPスラリー
- CMP洗浄剤
- 機能性洗浄剤
- Wet SAM

ALD/CVD材料



緻密な膜の
制御による
デバイスの
構造革新

ALD/CVD成膜工程に使用される材料を提供し、三次元化、多層化する複雑な半導体構造の実現に寄与

主な製品

- ALD/CVD用プリカーサー
- ドープパント

先端実装材料



高密度実装の
高性能化／
精工化

半導体の製造に用いられる絶縁材料や高密度実装に対応する材料などを提供し、高品質で多様な市場ニーズに対応

主な製品

- めっき用厚膜レジスト
- 感光性絶縁材料



ディスプレイソリューション事業・ オプティカルソリューション事業

大型テレビやIT／スマートフォン、車載、パブリックディスプレイ用途、AI対応など多様化するデジタル製品に使用される材料を提供しています。高画質・デザイン多様化に加え、省エネ・PFASフリーなど環境保全にも対応した幅広い高性能製品でソリューションを提案しています。

強み

- 高シェア製品の保有と幅広い製品ラインナップ
- 市場・顧客ニーズに対応した営業・開発・製造体制と事業インフラ
- 高分子技術、加工技術をベースに培ったソリューション提供力、高い品質競争力

JSRグループのポジション

アプリケーション	テレビ、PC、スマートフォン、タブレットなど	
顧客	パネルメーカー、モジュールメーカー (LCDパネル、OLEDパネル、オンセルタッチセンサー)	
JSRグループ	ディスプレイ材料 配向膜、絶縁膜など	オプティカルソリューション 耐熱透明樹脂など

ディスプレイソリューション事業

LCD材料



高いシェア／
幅広い製品群

セル／アレイ／カラーフィルターの主要3工程で50%を超える高いシェアを持ち、低温プロセス材料・PFASフリー材料や配向膜リサイクル事業も展開

主な製品

- 配向膜
- 絶縁膜
- 保護膜

OLED材料



フレキシブル
OLED対応／
高機能化

LCD材料で培った事業インフラと絶縁膜や低温材料技術などの差別化技術を活用し、低温硬化絶縁膜、光取出し材料でシェアNo.1

主な製品

- 低温硬化絶縁膜
- 有機中間絶縁膜
- 光取出し材料
- 薄膜封止材料
- バンク・平坦化材料

オプティカルソリューション事業

耐熱透明樹脂ARTON®(アートン)



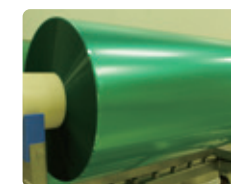
耐熱性／
透明性／
耐吸湿性

当社オリジナルCOP樹脂。LCD/OLEDディスプレイを構成する位相差フィルム向けを中心に、各種モバイル用途向け材料に適用

主な製品

- ARTON樹脂

ARTON®光学フィルター



薄膜／
軽量／
高機能化

多様な光学特性を備え、割れにくく薄膜軽量の樹脂製光学フィルター。スマホカメラの高画素化やセンシング技術における高感度検出に貢献する材料に適用

主な製品

- 光学フィルター(カメラ用途)
- 光学フィルター(センシング用途)



合成樹脂事業

自動車部材を中心に高機能な樹脂を提供



JSRグループであるテクノUMGが提供するABS系樹脂を中心とした製品は、多様なニーズに柔軟に対応する技術力により生み出され、複数の特性を組み合わせたユニークな特徴を持っています。樹脂製品の開発と部品設計の支援に取り組んでおり、世界中のユーザーに高く安定した品質、付加価値の高い製品を提供しています。

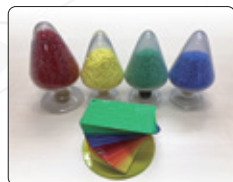
強み

- 独自技術による戦略商品の開発
- 広く深く市場を開拓するマーケティング力
- グローバルに対応可能な販売拠点とSCM体制
- サークュラーエコノミー推進による製品ライフサイクル構築
- バイオマス原料の素材研究・開発

JSRグループのポジション

アプリケーション	自動車、家電機器など	
顧客	自動車業界（内装部品、外装部品） その他メーカー（家電部品、建築部品など）	
JSRグループ	一般ABS系樹脂	高付加価値品 HUSHLLOY®、VIVILLOY®、PLATZON®など

ABS系樹脂



豊富な
ラインナップ

高い実用耐性、耐衝撃性、加工性、耐候性を活かし、自動車部品や電気器具、建材部品に適用

- 一般グレード
- 難燃グレード
- 耐熱グレード
- 耐候性グレード

きしみ音対策材 HUSHLLOY®



静粛性／
部品削減

部品が擦れ合うことで発生する不快なきしみ音を防ぎ、きしみ音対策の効果の持続と部品コストの削減に貢献

用途 カーナビパネル、カップホルダーなど

めっき用材料 PLATZON®



生産性／
効率性

めっきの密着強度に優れ、極めて広い生産条件に対応可能で、生産性向上、歩留まり改善に貢献

用途 ステアリングホイール等自動車内装のめっき加飾部品など

高発色性材料 VIVILLOY®



環境負荷
低減／
効率性

無塗装でありながら塗装に近い深みや鮮やかさを再現し、塗装工程省略およびトータルコストダウン、環境負荷低減に貢献

用途 ラジエーターグリル等自動車外装部品など



ライフサイエンス事業

探索・開発プロセスの支援および診断薬・研究試薬の提供



JSRグループでは、CRO事業（医薬品の探索および開発受託）、CDMO事業（バイオ医薬品の開発・製造受託）、BPM事業（バイオプロセス材料）に取り組み、各グループ企業が一体となって、バイオ医薬品の探索から商業製造までの一貫したプロセス支援体制をグローバルに展開しています。これらの一連の事業を提供することで、医薬品の開発成功確率の向上や開発期間短縮に貢献していきます。

強み

- 高い知見・技術力を持つグループ各社間のシナジーを発揮
- バイオ医薬品の探索から商業製造まで一貫してプロセスを支援できる体制
- 複雑なバイオ医薬品の開発サポートを提供する能力
- 半導体事業で培った品質保証体制
- バイオ医薬品製造のための動物細胞株樹立に対して世界クラスの技術と先進的ソリューションを提供
- バイオ医薬品製造業向けに革新的な材料を提供

JSRグループのポジション



CRO



探索・
開発受託

がん、免疫、炎症領域における最新のトランスレーショナルリサーチを通じて、非臨床段階における開発候補化合物の探索と開発を受託

CDMO



開発／
製造受託

バイオ医薬品の開発を細胞株樹立からプロセス開発、臨床試験および商業化における原薬製造まで一貫して受託

BPM



製造プロセス
最適化

精密なポリマー合成技術、表面修飾技術、遺伝子工学技術を融合させた次世代型アフィニティ担体で、バイオ医薬品の製造プロセスの最適化に貢献

※本事業は、2025年10月にMerckへ事業譲渡する契約を締結しました。

その他事業

JSRグループでは高い技術力を活かして社会に貢献するべく、グループ一体となった事業開拓や、企業・大学・研究機関とのオープンイノベーションで、様々な製品を生み出しています。



ホルター心電計 Heartnote®



検出率向上

胸部に貼るだけで日常生活に支障なく最大7日間連続で心電測定が可能となり、従来の検査(24時間測定)では捉えにくい発作性心房細動※などの検出頻度を上げることを可能に

※脳梗塞の起因となる不整脈

※本事業は、2025年10月にオムロン ヘルスケア株式会社へ継承する契約を締結しました。

Webサイトのご案内

詳しい製品情報をWebサイトにのご案内しています。
ぜひご覧ください。

<https://www.jsr.co.jp/products/>



研究開発と品質・製造

JSRグループは、新たな価値を生み出す先進技術の開発に挑み、高い品質意識に基づく優れた製品を社会に提供し続けることで、社会課題の解決に貢献します。



研究開発

当社の研究開発部門では、人々の生活をより豊かにする高機能・高品質な製品を生み出す「事業研究」と、次々世代の社会変革を視野に入れた研究や、分析などの研究基盤を担う「コーポレート研究」の両輪で取り組みを進めています。

事業研究では現在展開している事業領域とその周辺分野における研究を進めており、たとえば電子材料事業においてはAI技術を支えるA10・A7ロジックデバイス製造に不可欠なフォトレジスト、CMP関連材料、各種プリカーサーの開発と量産適応を行い、ロジックプロセスロードマップ^{※1}に沿った半導体業界の急速な進化を材料から支えています。JSRグループの持つ最先端のEUVフォトレジストは、Line/Space^{※2}=8/8nmの

極微細パターン形成を可能にします。その寸法はウイルスよりも小さい小型タンパク質に匹敵し、さらにDNA二重らせん構造の直径(約2nm)に迫る制御精度が求められます。これには分子構造そのものの設計が必要であり、新しい分子を構造体として可視化するという、高度な創造性と精密さが要求される領域です。また、人は五感の中でも視覚に大きく依存して情報を認知しています。当社のディスプレイソリューション事業では、日常を彩るサイネージや、バーチャル空間と物理世界をつなぐ高輝度ディスプレイの製造に不可欠なLCD配向膜、絶縁膜、保護膜、OLED材料などの分野で高い技術力と長年の市場シェアを有しており、材料技術を通じて人の視覚体験の向上に貢献しています。事業研究という具体的課題に取り組み、実証・検証を繰り返しながら成果を社会に還元できることは、企業における研究開発の醍醐味です。当社ではこのほかにも様々な製品の研究開発に取り組んでおり、半導体やディスプレイ材料から次世代基盤技術まで、課題解決に役立つ技術貢献を加速しています。

コーポレート研究では、RDテクノロジー・デジタル変革センターを中心に、ソフトウェア開発、データサイエンスの応用による研究開発業務全般の加速と最先端の分析技術の活用、スケールアップを迅速・適切に行うプロセス技術開発等のほか、メタマテリアルやスピントロニクス材料、低次元材料など、未知の分野への挑戦と基礎技術開発を進めています。大学やコンソーシアム、社外パートナーとの連携を通じて、環境・エネルギーといった社会課題に対し、技術による解決策の提供を目指しています。さらに、マテリアルズ・インフォマティクスや

量子化学計算の実用化を進めることで、製品開発におけるパラダイムシフトの創出にも挑んでいます。

このように当社の研究開発は、生活を豊かにする事業研究と、未来を切り拓くコーポレート研究の両輪で進めています。安全安心で豊かなデジタル社会、低環境負荷で持続可能な社会に貢献していくことを目指し、未来に向けた価値の創出に取り組んでいます。

品質・製造

当社は、化学製品を十分な品質で安定的に提供することを責務としています。オンゲストルーム^{※3}レベルの制御が必要なフォトレジスト、視覚に訴える表示材料、自動車向けの大型樹脂製品まで、極小から大型まで多様な製品を製造・供給しています。この多様性を支えるのは、化学工学に基づくプロセス設計、設備技術、保全技能です。たとえば、300mmウエハ上で10nm²サイズの異物を数個以下に抑える制御は、東京ドームで針の穴を探すような精度を求められます。こうした高精度を実現するのは、熟練した従業員の技能と品質意識、そして継続的に改善される設備の融合によるものです。人と技術の力で、当社は業界最高水準の安定供給と高品質を実現しています。

- ※1 ロジックプロセスロードマップ：先端半導体の世代計画。半導体の技術革新はこのロードマップに沿って進む。
- ※2 Line/Space：半導体パターンの線(Line)と隙間(Space)の繰り返し寸法を指す表現。8/8nmは、線幅8nm・隙間8nmのパターンを意味し、非常に細かいスケール。
- ※3 オンゲストルーム(Å, angstrom)：長さの単位で、原子・分子スケールの寸法表現に用いられる。

研究開発体制図

顧客への価値提供・社会課題の解決

事業研究

電子材料事業部

精密電子開発センター

- リソグラフィー材料開発室
- リソグラフィーソリューション開発室
- 先端実装材料開発室
- プロセス材料開発室

ディスプレイソリューション事業部

ディスプレイソリューション開発センター

- アクティブソリューション材料開発室
- プロセスソリューション材料開発室
- ディスプレイソリューション材料開発室
- アドバンスソリューション開発室

オプティカルソリューション事業部

- オプティカルソリューション開発室

コーポレート研究

RDテクノロジー・デジタル変革センター

- マテリアルズ・インフォマティクス推進室
- イノベティブマテリアルズ開発室
- JSR・東京大学協創拠点CURIE

基盤技術開発

- 物性分析室
- プロセス技術開発室

JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

JSR・慶應義塾大学 医学化学 イノベーションセンター (JKiC)

研究開発拠点

精密電子開発センター

AI/ICT時代を支える半導体技術の発展に向け、私たちは合成化学・分析化学・データ科学・計算化学を駆使し、革新的なマテリアルを開発・提供しています。世界中の顧客との対話から未来の材料を創出し、その期待が挑戦の原動力となっています。さらに、米欧の研究機関と連携し最先端の知を取り込みながら進化を続け、若いメンバーが自由闊達な議論の中で次世代技術を切り拓いています。



ディスプレイソリューション開発センター

デジタル社会を支えるディスプレイ向けの材料を開発し、多くの主要部材でシェアNo.1を誇っています。多様な専門人材が有機・高分子化学やDX技術を駆使し、合成・性能確認まで一貫して革新的材料開発に挑戦しています。また、主要顧客に近い中韓台の現地ラボとの連携や、顧客との共同実験などを通じ、我々が開発した材料を使ったディスプレイを見ながら仕事ができるのも魅力です。



オプティカルソリューション開発室

IoTの普及や通信技術の進化に伴うニーズに対し、必要となる光学設計、材料、加工といった多彩な要素技術を開発しています。スマートフォンカメラの高画質化に不可欠な近赤外線(NIR)カットフィルターやセンシング用途向けに好適な樹脂製光学フィルターなど、光学部品市場に価値あるソリューションを提供するべく、多様な専門技術人材が研究開発に取り組んでいます。



プロセス技術開発室

重合や精製条件の確立、スケールアップ、新しい製品群の製造プロセスなど、ものづくりの要になる製造技術全般を開発しています。



物性分析室

様々な装置や手法を用いた分析と物性評価で、材料開発における日々の支援や、お客様の元で製品が使用される際の課題解決に取り組んでいます。



JSR・東京大学協創拠点CURIE

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻と包括的連携を結び、物理と化学を融合した視点から研究活動に取り組んでいます。



JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

先端半導体材料の開発や、マテリアルズ・インフォマティクス、ライフサイエンス分野など、多岐にわたる研究活動に取り組んでいます。



会社概要

社名

JSR株式会社 (JSR Corporation)

設立年月日

2023年6月15日

創立年月日

1957年12月10日

資本金

16,300百万円

売上収益

4,050億円 (2025年3月期)

連結従業員数

7,645名 (2025年3月31日現在)

事業所一覧

本社

〒105-8640
東京都港区東新橋1-9-2
汐留住友ビル

JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

〒210-0821
神奈川県川崎市川崎区殿町3-103-9

四日市工場

精密電子開発センター

ディスプレイソリューション
開発センター

オプティカルソリューション開発室

RDテクノロジー・デジタル
変革センター

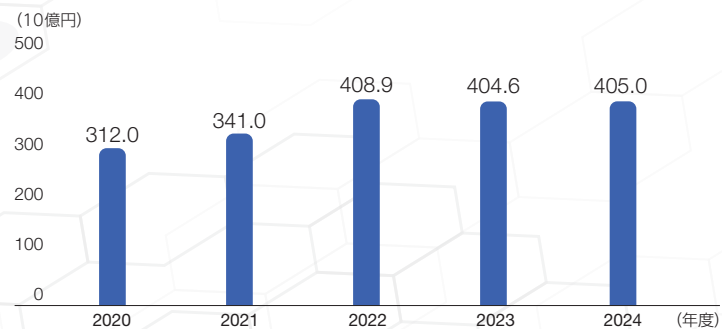
〒510-8552
三重県四日市市川尻町100

JSR・慶應義塾大学

医学化学イノベーションセンター (JKiC)

〒160-8582
東京都新宿区信濃町35

売上収益



サウンドメディア



コーポレートサイト

<https://www.jsr.co.jp/>



統合報告書

https://www.jsr.co.jp/ir/library/annual_csr_report.html



公式LinkedIn

<https://www.linkedin.com/company/jsr-corporation/posts/?feedView=all>



公式Youtubeチャンネル

<https://www.youtube.com/@JSRCorporation>

※画面は2025年10月時点で開発中のものです

